

お客様 の声

2026年3月

今回のお客様

北海道大学病院
医療技術部 放射線部様

【配信元】

メディエ株式会社

〒104-0042
東京都中央区入船三丁目 10-9 新富町ビル 3F
TEL: 03-3537-1906 (代)
URL: <https://www.medie.jp/solutions/nextant>

当院での Nextant 導入について

北海道大学病院 医療技術部 放射線部

MRI検査は、体内情報を詳細に把握できる非常に有用な検査手法です。一方で、磁力を用いた撮像原理から、体内に金属やインプラント・医療機器が存在する場合、その適合性を正確に判断しなければ重大な事故につながる危険性があります。そのため、MRI検査前の安全確認は放射線部門において極めて重要な業務の一つと考えます。

当院では、5台のMRI装置があり、そのうち2台が1.5T、3台が3Tです。1日およそ65~75件の検査を実施しており、術後フォローの患者さんも多いため、何らかのデバイスが入っている方の検査が半数を超えます。

検査の流れとしては、MRI検査室に来て受付後、問診票を患者様本人に記載して頂くようにしています。本人が記載できないようであれば、付添の家族や、病棟の看護師をお願いしています。

いざ、検査しようと準備をする段階で、問診を確認したところ詳細不明の体内デバイスがあるといったケースが頻繁に起こります。

従来、インプラントや医療材料のMRI適合性を確認する際には、メーカーの添付文書を探したり、学術論文やガイドラインを参照したり、場合によっては製造元へ直接問い合わせる必要がありました。しかし、こうした情報は複数の媒体に分散しており、必要な情報にたどり着くまでに労力がかかりました。また、当院では名称不明の体内金属や医療機器がある場合、放射線診断科の医師と依頼した診療科の医師とで確認を取り合うなど相当な時間を要し、該当患者さんを待たせるだけでなく、他の患者さんの検査の遅延にも繋がっていました。

私自身、安全性が確認できないという理由で検査自体が中止になる場面に何度も立ち会ったことがあります。こういったことは患者さんの不利益につながるので可能な限り回避しなければなりません。

このような課題を背景に、医療機器のMRI適合性情報を一元的に確認できる支援システムであるNextantの導入が進められました。Nextant導入後は、製品名やメーカー名、使用部位など複数の切り口から検索が可能となり、導入前は15分、場合によっては30分以上かかっていた確認作業が10分程度の短時間でできるようになりました。条件付きでMRIが可能なデバイスについても、磁場強度や撮像条件・撮像体位などが整理された形で提示されるため、すぐに検査の準備にとりかかることができることも大きなメリットです。

Nextant[®]

医療機器のMR適合性検索システム

また、放射線部門内で確認作業を終えることができるようになったため、放射線診断科や依頼した診断科に聞かなければ分からないといった状況が減少し、そのほかにも医師からの問い合わせに対して即座に回答できる場面が増え、検査の遅延や中止の回避につながっています。

一方で、経験の浅い技師であっても、一定の基準に基づいて情報を確認できるため、確証をもって検査を実施できるようになりました。Nextantで検索し、結果を得た状態でベテランの技師に確認をとるため、安全を確保したうえで円滑な検査をすることが可能となっています。そして日常業務の中でシステムを活用すること自体が、MRI安全管理に対する意識向上につながり、放射線技師だけでなく、当院であれば放射線部に関わる看護師や、MRI検査の受付を最初に行うクラークも問診に記載されている体内デバイスに気を付けるようになりました。

もちろん、最終的な撮像判断は医療従事者の責任のもとで行われるべきであり、システムはあくまで判断を支援するツールに過ぎません。しかし「まずは正確な情報に素早くアクセスできる環境」が整ったことで、時間的余裕と心理的安心感が生まれ、結果として患者に対してより安全で質の高い検査を提供できるようになったと感じます。

今後取り組んでみたいこととしては、電子カルテとの連携を挙げます。依頼科がMRI検査を依頼する段階でデバイスの確認・撮像条件の確認が可能になれば、MRI検査室での確認がより円滑になると考えられます。

また、電子カルテと連携することで医師が患者さんにデバイスについての説明をより正確に行うことができ、それが患者さん本人にも自分の身体のなかにどのようなものがあるかという意識につながると考えられます。そうすることにより、他院でMRI検査を行うようになったときにもスムーズな検査に繋がると考えます。

そのほかにも患者ごとの確認履歴の蓄積などが進めば、さらに業務効率と安全性が高まることが期待されます。取り巻く環境が高度化・複雑化する中で、こうした情報基盤の整備は、現場を支える重要な要素となりうると言えます。

繰り返しになりますが、MRI検査は有用である一方、体内デバイスの適合性確認が不可欠です。当院では確認に時間を要し、検査遅延や中止が課題でした。Nextantを導入することにより情報確認が迅速化し、安全性と業務効率が向上しました。今後は電子カルテ連携により、さらに円滑で安全な検査体制が実現することを期待します。